

情報が多ければいいというのは間違い！

顧客を情報洪水から守るFPの大切さ

行列FP 林健太郎

林FP事務所

情報が多すぎる ことの害

1. 情報全てを消費しきることはもはや不可能

- YouTube 1分間に500時間の動画→3万人が24時間365日 YouTubeを観続けてようやく消費できる
- Netflix 1分間に40万時間配信→2400万人が視聴
- 当然これだけではない...今後もどんどん増える

2. 「情報過剰負荷」による判断の誤りや思考停止が課題

- 簡単に情報が手に入るインターネットの負の側面
- 顧客の負荷を下げ、正しい判断や行動につなげる必要

3. 必要な情報を必要なタイミングで届ける力が重要

- 顧客に寄り添う専門家の価値がますます高まるだろう

情報過剰負荷とは？特徴とその対策

■ 行動経済学のヒューリスティクス

- 意思決定するにも「コスト」がかかる
- コストの増大を避けるために「直感的判断」を下す。疲れているとき、意志力が低下しているときに顕著。

■ ヒューリスティクスの一つとして「情報過剰負荷」

- 情報が多すぎて、正しく判断、評価できない状態のこと
→この場合にヒューリスティクスが発動し、論理的、合理的意思決定ができない可能性が高まる
- 似た概念に「選択過剰負荷」がある。選択肢が多すぎると逆に判断できない。
→何千種類もの保険や投資信託の中から適切な一つを選ぶのはそもそも困難。

■ 過剰負荷への対策

- 顧客の状況に合わせ、必要最小限の情報をタイミングよく提供する
→顧客の状況を把握し、タイミングを見計らうために「継続的に寄り添いサービス」することが大事
- 選択肢を減らし、選びやすくする
→ライフプランで保険の「種類」を決めるだけでも、選択肢がかなり狭まる。
→つみたてNISAは選択肢が少なく、行動経済学的によい仕組み

結論

FPは顧客の状況を正しく理解、把握し、
過剰負荷から顧客を守るのが
重要な価値のひとつ

無料プレゼント中！



詳しくはこちら



<https://startup-fp.com/presentpdf>

行列のできるFP事務所プロデューサー 林健太郎

By 林FP事務所